



## 1 事業の目的

信濃川は甲斐(山梨)、武蔵(埼玉)、信州(長野)の3県境に位置する甲武信岳(2,475m)に源流を発する流路延長367km、年間流量160億m<sup>3</sup>、流域面積11,900km<sup>2</sup>を有するわが国を代表する河川である。上流部の長野県内では千曲川と呼び、新潟県では信濃川と呼ばれる。

新潟市はその最下流にあって、新潟市民は信濃川に親しみを抱いているが、千曲川(214km)が信濃川(153km)より長いことや、上流部の川の歴史や川文化、利用状況、水辺環境など、知らない人が多い。

そこで、信濃川、千曲川を知って川のあり方を見直すことを目的に、「新潟のみずつちの原点を探る、信濃川を訪ねる旅」とワークショップを企画した。

まず、水と土の芸術祭の原点である信濃川上流部、中流部、下流部について事前講座を開催した。

次に、本番の現地を自らの目で見、現地の方から川の歴史や文化の話聞ききする。新潟県妻有地方(津南、十日町市)で開催されている「大地の芸術祭2012」の一部を見学する。そして最後に感じたことを話し合い、信濃川と新潟市民の今後の付き合い方に関するワークショップを行なった。

ワークショップ前に、水と土の芸術祭参加の吉原悠博氏の映像詩「シビタ」込められたメッセージ“遡ることによって見えてくる未来”を鑑賞したあとワークショップを行った。

旅の案内役は、信濃川を良く知っている当会の代表大熊孝(新潟大学名誉教授)が担当し、当会の役員が安曇野、犀川、飯山、十日町の大地の芸術祭の下見し、当日はスタッフとしてサポートを行い実施した。

### ◆ 8月21日(火) 事前集中講座

○PM6:00~8:00 クロスバルにいがた4階403号室

### ◆ 8月28日(火) 現地講座

○AM7:00 新潟駅南口集合 7:10 出発

関越自動車道 北陸自動車道 上信越自動車道  
長野自動車道 長野盆地・千曲川中流域のミニ講義  
犀川沿いの東京電力水力発電所群見学  
西大滝ダム 東京電力信濃川発電所見学  
十日町市「2012 大地の芸術祭」見学

十日町市 林屋旅館宿泊

### ◆ 8月29日(水) ワークショップ

○早朝散歩「2012 大地の芸術祭」見学

8:00 宿を出発 宮中取水ダム  
河岸段丘ミニ講義 山本山調整池  
蒲原大堰・中ノ口川水門 横田切れ  
大河津分水資料館見学 新潟市へ  
14:30~16:30 クロスバルにいがたで  
新潟のみずつちの原点を探るワークショップ  
吉原悠博氏「シビタ」込められたメッセージ  
“遡ることによって見えてくる未来”  
17:00 解散





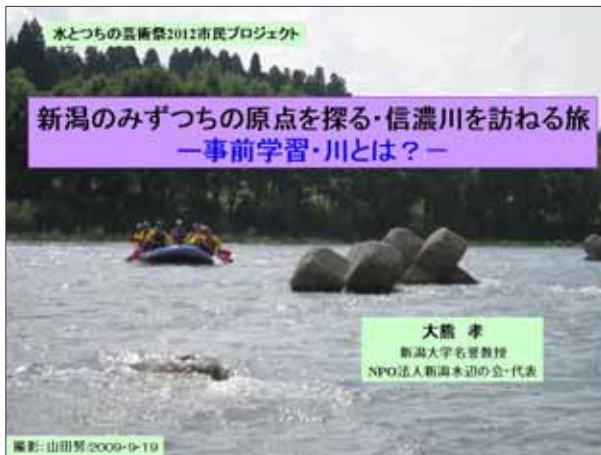
2012/8/21(火)

事前学習 ~川とは~

信濃川、千曲川、犀川をより知っていただくため、本番1週間前の8月21日午後6時30分より、クロスパルにいがた403号室に参加者に来ていただき、事前学習会を行った。

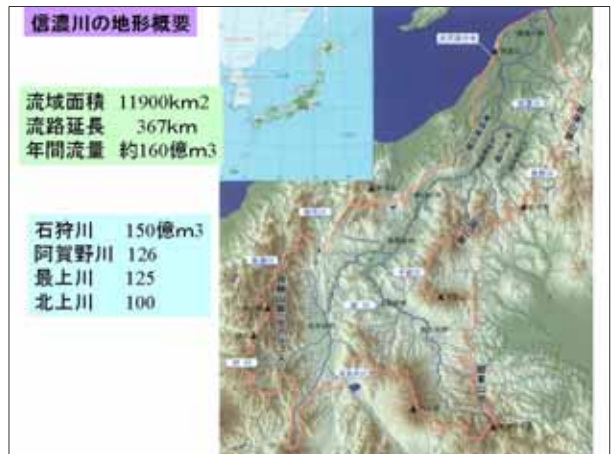


事前講義で説明する大熊代表



自然とふれあうこと、川(水辺)とふれあうこと、それは“からだ”を鍛え、“こころ”をつくる。  
 川(水辺)は人にとって、もっとも身近な自然である。  
 川(水辺)とふれあうことは、人間形成の原点である。  
 おおいに川と触れ合い、自然と付き合う技を磨こう。  
**自然の中での“労働”と“遊び”は同等に価値がある。**

**川とは？**  
 地球における物質循環の重要な担い手であるとともに、人間にとって身近な自然で、恵みと災害という矛盾の中に、ゆっくりと時間をかけて、人の“からだ”と“こころ”をつくり、地域文化を育ててきた存在である。  
**<いままでの定義>**  
 河川とは、地表面に落下した雨や雪などの天水が集まり、海や湖などに注ぐ流れの筋(水路)などと、その流水とを含めた総称である。  
 この定義だと、水は1年たてば必ず循環するので、川をコンクリートで護岸したり、ダムを造ることに**良心の呵責**を感じない。









# 2012/8/28(火) 現地講座

1 日目 新潟駅集合 AM7:00



34 人乗りのバスに乗り込む



新潟駅南口ロータリーに集合



途中でも大熊代表より説明



バスの中で自己紹介

## 1、千曲川 - 長野盆地 (洪水と人の営み)



長野市を望む千曲川



姥捨 SA にて千曲川の説明



長野市や黒姫山を望む



## 2、清らかで水量豊かな安曇野



大王わさび農場内の案内



清らかで水量豊かな万水川



映画のロケ地となった水車を見ながら

## 3、三川合流(犀川、高瀬川、穂高川)



北アルプスを望む犀川



上空からの犀川と三川合流地点



三川合流地点を地図で確認



犀川橋の上で説明



#### 4、山間の犀川(湧水期ダムによる無水区間)

##### 東京電力 生坂ダム



北アルプスの山々が見える生坂ダム



犀川の川ゴミが最初に集まるダム湖

##### 東京電力 平ダム



山に囲まれた平ダム



夏場の湧水期ダム下流は干上がっている



## 昼食(ジンギスカン料理と地元講師の話し)

午後1時、予定より30分遅く昼食場所のろうかく荘に到着した。昼食は地元名物ジンギスカン料理に舌鼓をうちながら、地元信濃新町公民館館長の武田様より、信州の歴史、文化、そして犀川の水害史、街道、舟運の変遷、国道19号線と地元の変わりようなどを1時間にわたってお聞きすることができた。



信濃新町公民館館長 武田 武様



犀川沿いの街道、舟運について



水内ダムによって出来たろうかく湖

## 東京電力 水内ダム



かつては魚道のあった水内ダム





## 東京電力 水内発電所



発電所をつなぐつり橋



発電所前の川に水はない



ダムと発電所について説明の大熊代表



普段は人の通らないつり橋

## 東京電力 笹平ダム



川のギャング・川鶉がいっぱい



発電用放水口からのみ水は流れる



## 5、千曲川 西大滝ダム



西大滝ダムの魚道



東京電力の方より水力発電について説明を



冬前に始まる魚道の改造説明を受ける



バスが通れないため、歩いて対岸へ

## 6、日本最高積雪地点(長野県栄村 )



栄村の見所の写真が並ぶ森宮野原駅前





## 7、大地の芸術祭 2012

「大地の芸術祭」は、越後妻有地域の里山を舞台に3年に1度開催される世界最大の国際芸術祭である。地域に内在するさまざまな価値をアートを媒介として掘り起こし、その魅力を高め、世界に発信し、地域再生の道筋を築いていくことを目指す「大地の芸術祭の里」の活動成果の3年ごとの発表の場として位置づけられ2000年、2003年、2006年、2009年の4回が開催され、2012年で第5回となる。



M019 . 足滝に生きる「記憶 - 記録」足滝の人々



作品 M-029 国境を越えて



作品 M-029 国境を越えて



自然そのものが作品の河岸段丘



稲作も作品に溶け込んでいる



天然記念物 外丸矢放神社の八本杉



作品 M-040 ミカドゲーム



## 8、信濃川 宮中取水ダム



新設された宮中取水ダム魚道観察室



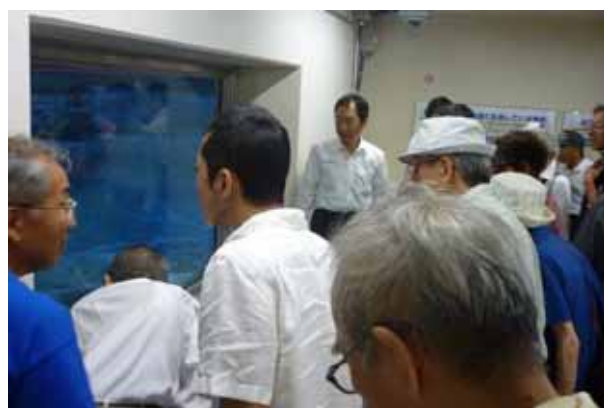
午後6時20分過ぎようやく到着



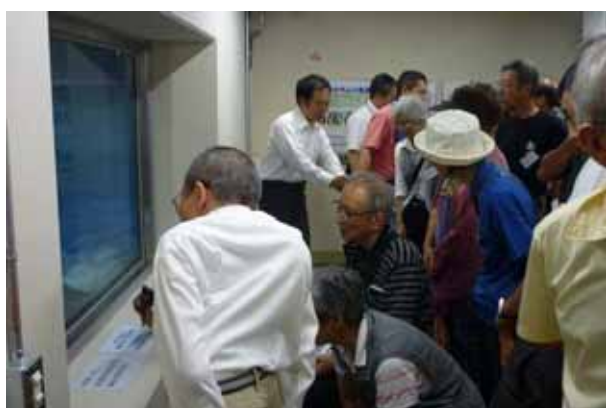
J R東日本の方が夕刻にも関わらず出迎えて



夕暮れの宮中取水ダム魚道を望む



宮中取水ダム魚道観察室内部



宮中取水ダム魚道観察室内部



魚道を遡るオイカワ



## 2012/8/29(水) 現地講座

### 2 日目 大地の芸術祭作品を早朝見学



作品 N061 未来への航海



作品 N-010-日本に向けて北を定めよ



作品 N-063-芯木



作品 N-019-ポチヨンキム



作品 N-028-たくさんの失われた窓



作品 N-027-森とつながる



作品 N-009-克雪人



参加者・塚田知次さんの作品 バッタ



## 宮中取水ダムを再度見学



宮中取水ダム堰堤を歩く



沈砂池を望む



川に流れ込むゴミ収集場へ



維持流量 80m<sup>3</sup>/s の掲示板を見る

## 大地の芸術祭作品を見学



作品 N-006-いちばん長い川



作品 N-005-妻有でそだつ木



作品 T253 下条茅葺きの塔



作品 T253 下条プロジェクト



## 9、越後平野の治水(横田切れ)

明治 29 年 7 月 22 日に発生した信濃川の堤防決壊による洪水。数日間続いていた大雨により信濃川の水嵩が増大し、西蒲原郡横田村の堤防の多くが決壊した。これにより新潟市関屋までの広い範囲が浸水し、被害面積は 180 平方キロメートル、床下・床上浸水が合わせて 4 万 3600 戸で、そのうち家屋流出は 2 万 5000 戸であった。この水害により、大河津分水は 1909 年に建設が始まり、1922 年に工事を終えた。



現在、横田切れの碑から信濃川は大分離れている



見渡す限りの田園地帯



石碑を見学する参加者

## 10、大河津分水と記念碑見学



信濃川と大河津分水路



弥彦山を望む



信濃川補修工事竣工記念碑



## 10、信濃川最下流(佐渡汽船で昼食)



信濃川河口を行き交う船を眺める



日本海に浮かぶ佐渡島も見えた

## 水と土の芸術祭 2012 参加の「シビタ」鑑賞と、その作者・吉原 悠博氏のお話



### 信濃川を遡る「シビタ」

故郷である新発田(シバタ)の地名には、複数の語源説がある。その一つがアイヌ語の“ 鮭の捕れる土地 ”という意味の“ シビタ ” からの説である。

江戸時代この地方を治めた新発田藩の領地は大変に広く、新潟市の沼垂を含めた現在の発田から長岡市中之島まで、つまり信濃川河口、阿賀野川河口をも領地とした。新発田藩領は、様々な川で鮭が捕れる豊穡な土地だった。

私は信濃川河口から始まり、甲武信ヶ岳の源泉までの 367 キロを旅した。この映像はその旅先で出会った光景を題材にし、町並み、洪水跡と石碑、分水、古戦場、廃墟、水力発電用ダム、魚道、工場などが川と共に次々と現れる。この川を、古代アイヌの視点でみるならば、満身創痍の生物ということになるのだろうか？ 私は、日本で一番長い川の現在を見つめて、未来の光景に想いを馳せた。



## 信濃川を遡る映像詩「シビタ」鑑賞

## クロスパルにいがた5階交流ホール

この長い川は日本海から始まり

遙か遠く甲武信ヶ岳の山まで遡る

から始まる映像詩「シビタ」は、吉原氏の祖先が治水運動家であり、風景写真が好きであった父と叔父を追って、信濃川を河口の新潟より、源流の甲武信ヶ岳までを遡ることよりはじまった。そして最後のエンドロールに吉原氏の思いがこもっていた作品であった。



宇宙からみた日本、そして日本、越後へ



川は下るが、映像は遡ってゆく



映像の地点を分かり易く工夫している



熱心に鑑賞する参加者



途中説明を加えながら



エンドロールに込めた思い

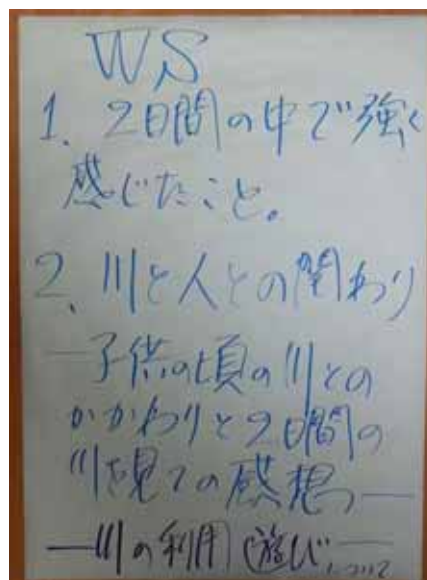




## 信濃川を訪ねる旅 ワークショップ

2日間にわたり犀川、千曲川、信濃川を旅しそして、大地の芸術祭 2012、映像「シビタ」を見て感じたことについて意見を出し合うワークショップを行った。

- 1、2日間の中で強く感じたこと
- 2、川と人との関わり  
～子供の頃の川とのかかわりと川を見ての感想～  
～川の利用、遊びなどについて～



参加者を3班に分けて



昨日と今日見て来た素材を思い出し



各々がポストイットに



全くワークショップが初めての方も居たが



出てきた感想をまとめ



20台から70台までの人々が感想を





- ・松岡 長孝 ・鈴木 哲 ・真野 善弘 ・本田 勇策 ・相馬 九二市
- ・佐藤 勝 ・渡辺 美代子 ・清水 茂子 ・山田 淑子 9名



この班では鈴木さんが発表



参加者の思いを確認しながら

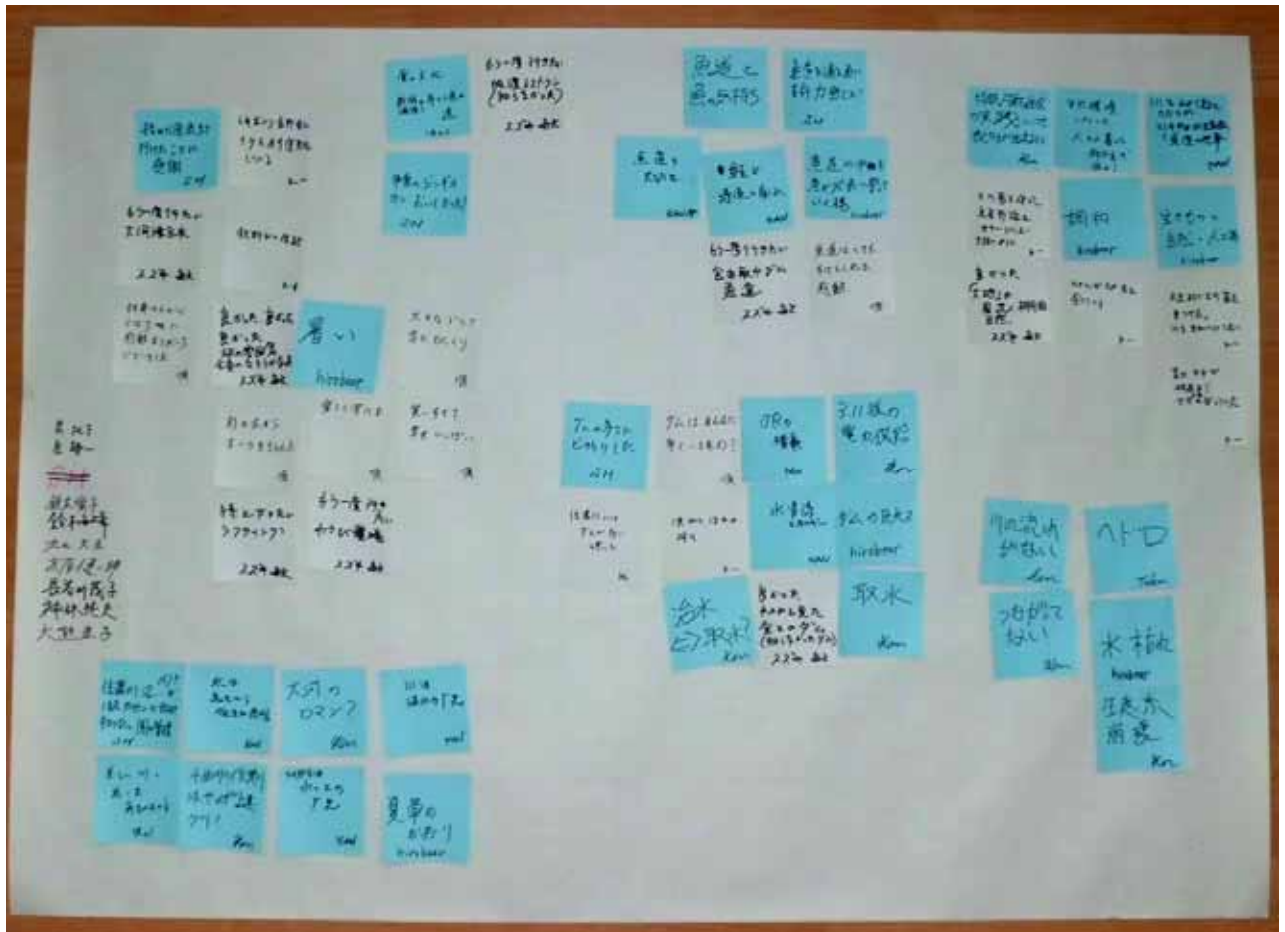


鈴木さんの発表を聞く



ポストイットに感想を





- ・泉 純子      ・泉 興一      ・鈴木 順子      ・鈴木 敏幸      ・丸山 久子
- ・高原 健一郎      ・長谷川 茂子      ・神林 純夫      ・大熊 宏子      9名



この班では高橋さんが発表



他の方々の感想を聞きながら



高橋さんの発表を聞く



初めての方も一生懸命に感想を





- ・大熊 孝 ・岩崎 惇子 ・畠山 繁樹 ・小山 武男 ・高橋 暢夫
- ・中濱 祐一 ・大野 敏昭 ・塚田 知次 ・小林 満男 9名



富山から参加の中濱さんの発表を聞く



初めての方も一生懸命に感想を



茨城から参加の岩崎さんの意見を分類



1枚1枚を確かめながら







## 振り返りシート結果集計

### 1, 今回のダムのうち、過去に見学したダムは、ありますか。

ない           ある ・宮中取水ダム、・西大滝ダム、・小田切ダム  
                  ・笹平ダム、水内ダム、・平ダム、・生坂ダム

#### 記入結果

ない       19名

ある       7名

<内訳> 宮中取水ダム - 5名, 西大滝ダム - 4名, 小田切ダム - 3名, 笹平ダム - 3名  
水内ダム - 3名, 平ダム - 3名, 生坂ダム - 3名

### 2, 犀川にあるダムと発電所、そして河川環境を見てどのように感じましたか。

#### <記入コメント>

- ・水無し川が無いようになれば良い
- ・無水と満水のギャップを前回より感じた
- ・有効利用の基にダムが多すぎ、河川環境に良いと思えない
- ・自然とダムの発電というエネルギーの生産とは、とても難しいものであると感じた
- ・ダムが使われていないと思いました、渇水時期のため魚が住めるダムにしてほしい
- ・こんなにダムが必要なのか、魚道がないのは生態系が崩れる
- ・無水区間が多い、法令違反ではないが少し考えた方がよいと感じた
- ・こんなに多くのダムがあるのか、すべてのダムに魚道を付けるように
- ・ダムは当時の人知を集めたすごい施設で、改めて反原発とダム（川の環境保全）を考えたい
- ・ダムが多いように思った
- ・あまりにも水が少ない、豊かに水の流れる大河をみたいものです
- ・発電することが優先して、河川環境は考えていないような状態である
- ・ダムがあった方が美しいか、無い方が美しいか、観光面をとらえた場合
- ・昔からの川の姿に戻して、子どもたちが遊べる川に戻してほしい
- ・鮭がかつてのように松本まで帰って来れる川に戻してほしい
- ・経済活動優先で突っ走ってきた今までの生活をどう変えてゆくか、地道に声を上げてゆくしかないのか、もどかしい思いです
- ・川に水が流れるのが当然、川は発電所の排水路ではない、プンプン
- ・区間にほとんど水が無いところがありさみしい、
- ・水の無い川には怒り
- ・流木を除去したり、環境改善に努めている
- ・信濃と越後は川でつながってる
- ・川が何箇所か死んでいたのに驚いた
- ・干ばつの川は悲しい、悲惨
- ・無水区間が有ることにがっかり
- ・魚道のないことが問題である
- ・あまり関心がなかった







### 3 , 昼食時の武田さんからの説明はいかがでしたか。

#### < 記入コメント >

- ・ 食事中でよく理解ができなかった
- ・ 水害と堤防の関係など良かった
- ・ 楽しくおいしかった
- ・ わかりやすく大変良かったので聞き入りました
- ・ 食事と武田さんの説明は別の方が良いように思った
- ・ 地元の歴史がよくわかりました
- ・ 資料館での説明が欲しかった
- ・ 有効落差を稼ぐためえん堤を高くし、土砂で洪水がひんぱんに発生するようになったと聞いた
- ・ 説明と食事、分けて聞きたい
- ・ 食べるのに忙しく、中途半端に聞き失礼しました
- ・ 良かった
- ・ こんなにすばらしい所があることを知りました
- ・ 歴史・地元への愛着が強く感じられ、好感をもちました
- ・ 食事を取りながらでは集中できなかった
- ・ 食事に頭がいて、お話が聞き取れませんでした
- ・ 夫が生きて同行していたら、もっと面白い歴史物語をしたと思うと悲しかった
- ・ ジンギスカン料理がおいしかったせいか、さっぱり分かりませんでした
- ・ 良かった、歴史が分かった
- ・ 地元の方の話はスタッフとは別な面白さがあった
- ・ 丁寧に分かりやすく説明していただいた
- ・ 地元にはほこりを持っておられることが、嫌味でもなく、強がりでも無く感じられ良かった
- ・ 現場を目の当たりにしての説明は理解が深まったが、食事の前か後にしてほしかった
- ・ 養蚕の副産物としてのジンギスカン料理が養蚕がなくても続いていることのおもしろさ
- ・ 現在でもオーバーフロー洪水対策の隧道を掘っていると聞き、びっくりした





#### 4 , 東京電力の西大滝ダムでの説明はいかがでしたか。

##### < 記入コメント >

- ・ 一生懸命に説明してくれた。熱意に感謝
- ・ 魚道改良の結果を待ちたい
- ・ 態度が変わってきた気がします
- ・ 原発事故以来東電職員は、やっと説明している感じがしました
- ・ 暑い中、東京電力の職員の方は、一生懸命に説明されていたので良かった
- ・ ていねいな対応でした
- ・ 魚道だけの説明で期待はずれ
- ・ 魚道に対して、しっかりと考えるようになったと感じた
- ・ 簡潔で分かりやすく聞けた
- ・ 丁寧に説明していただきました
- ・ 暑かった
- ・ 丁寧な説明で好感をもちました
- ・ 暑くて集中できなかった
- ・ 見学者への接し方は以前と違って心がこもって丁寧でした、とても興味深く聞けました
- ・ 暑い中わかり易かったが、今度また行って説明を詳しく聞きたい
- ・ 魚道を久しぶりに見た
- ・ 魚道が役立っていることがわかり良かった
- ・ 構えている感じもありましたが、以前より耳を傾ける気になった
- ・ 以前より丁寧に一生懸命、市民にも分かってもらいたいという誠実な対応であった
- ・ フレンドリーになっている
- ・ 魚道を改造することはそれなりに評価できるが、ダムの状況については疑問が残る
- ・ 維持流量 20m<sup>3</sup> は今後も努力し 30 までガンバレ
- ・ わかりやすい説明でした
- ・ 今回の直接のテーマではないかも知れないが、水力発電がどう役立っているかも説明が欲しかった
- ・



## 5, JR東日本の宮中取水ダムでの説明はいかがでしたか。

### <記入コメント>

- ・2回の説明と始めて見る魚道など、なるほどと理解ができた
- ・魚道改造の結果を待ちたい
- ・勉強され実験し実際に小魚が泳ぐのを見て感動しました
- ・これからも遡上がうまくいくと良いのですが
- ・良くなったと云う感じはあったが、いずれにしてもダムは自然を破壊している原点だと思う
- ・28日の夕方と、翌日の朝の2度の説明に感動しました
- ・魚道の説明も良かったが、ダムがなければ魚道の設置も費用も必要がないので、複雑な気持ちになった
- ・努力されているのがよくわかりました
- ・よかった
- ・維持流量を増やし、下流河川に対することを考えて発電と自然を少しずつ共存しようとしているのがわかった
- ・魚道での小さな魚の発見はオドロキ、子供を連れて行きたい
- ・具体的に遡上を確認し、更に改善を図る姿勢に満足しました、
- ・水がきれい、魚道も立派でした
- ・丁寧な説明で好感をもちました
- ・魚影に感動した
- ・日本中のダムにこの様な魚道が出来ると良いと思う
- ・魚道には以前から関心があり、ぜひ写真などを頂いて説明と共に茨城の方で話す機会を作ります
- ・まあまあよかった
- ・今度は孫と一緒にいきたい、良かった
- ・魚道が役立っていることがわかり良かった
- ・水中で流れに逆らい昇ってゆく魚を見て感動した
- ・魚道を実際に見て、いろいろな工夫を見せてもらって良かった
- ・これから資料等を見る上で参考になりました
- ・経済優先より河川環境に配慮している様子が伺われた、とても丁寧で誠意がある対応であった
- ・大きい魚と小さい魚の魚道についてももう少し詳しく聞きたかった
- ・28日夕方、29日の朝と2回も説明を受けたJRの熱意が伝わった
- ・ガラス越しでの魚道の様子がよくわかり楽しく、子どもたちにも見せたいと感じた
- ・反省もこめ、改良に努力している
- ・観察室で実際にオイカワの遡上の様子が観察できて有意義であった
- ・魚道の説明資料があり、よくわかった





## 6. 3.11 大震災以降のエネルギー(水力発電) で感じたことは？

### <記入コメント>

- ・水力発電の重要さ、必要性を感じた
- ・今後大いに期待する
- ・水力より火力の方の再稼動に目がいていましたが、水力発電も大切と感じました
- ・がんばっている・・・と云う感じでした
- ・原発にはぜったい反対であるが、水力発電も考える必要がある様に思いました
- ・原発に頼らないのであれば、更に水力発電に頼らざるを得ない、その際の生態系の調和をどう行っていくか
- ・人間が使うもので、自然が犠牲になっている
- ・この水力がここで何に使われているか知ってもらわなければならない
- ・宮中ダムの説明で、JR東日本での3割の発電量を創出している。多様な手法が必要と思った
- ・自然環境の維持を考慮した水力発電は必要
- ・エネルギーを作るのも自給自足でやったらいいのでは
- ・原発との兼ね合いから必要
- ・水力だけでなく、自然界のエネルギーを有効に活用したい、原発反対
- ・脱ダムを長野オリンピック後の田中知事の頃から関心があったが、脱ダム後の反原発(すぐにゼロにせよという世論が8割近いという社会の認識)どこに実現の方法をおき、私たちはどこまで電力に頼らぬ生活が出来るか考えたい
- ・水力だけにまかなうのではなく、風力や地熱の利用方法も
- ・クリーンであるはずの水力が川の水枯れをおこし、自然破壊を起こすことがあるを知り、自然とのバランスが必要だと思った
- ・エネルギー問題の再構築が必要と思った
- ・電化されていない区間でのディーゼル用A重油の不足による運休への不条理感
- ・水力発電の比重が多くなり、取水の水量が増えることは「今回の旅」の後、困ったものだと考えました
- ・原発に大きく振られたと思うが、火力、水力にゆり返しが来るのではなく、次世代エネルギーの開発や多種類で地域を分散し、エネルギーも地産、地消に近づけていけないだろうか
- ・JRのラッシュ淡水対策の調整池など努力していると感じた、しかし、全電力の中で水力のウエイトが小さい
- ・原子力発電継続に逆風が吹いている状況で、水力発電の存在は頼もしい
- ・魚も生きていけるようにしてほしい
- ・水力発電だけでは足りない



信濃川を訪ねる旅についてお応え下さい。

1 , 信濃川を訪ねる旅のツアー実施時期について

夏場の湧水時期でよかった。 9名

別の時期がよい。 10月頃が良い 7名

- ・ 時期は関係なし
- ・ 鮎の遡上時期
- ・ 鮭の遡上時期
- ・ どちらも見たい

2 , この度の信濃川を訪ねる旅は、新潟市水と土の芸術祭からの支援があって安くなっていますが、いくらなら今後もご参加いただけるでしょうか？

1万円 9名

1.5万円 11名

2万円 3名

その他( 円) 1名

- ・ 安いにこしたことはない

3 .ワークショップの改善点、要望などありましたらお書きください。

- ・ 個人発表でなく、良いシステムだと思う
- ・ 特になし
- ・ グループで各自の年齢、環境により考えが違い、おもしろかった
- ・ 特にありません
- ・ 大熊先生、スタッフの皆様へ感謝だけで改善点はゼロです
- ・ ベストです、魅力満載でした
- ・ 反省、整理ができて良かった
- ・ 疲れていたものでやりたくなかった、
- ・ この方式を使うならこのようなやり方でしょう
- ・ これでよいと思う
- ・ 時間の制約(短い)がありましたが、皆さん熱心に取り組んで良かったと思う
- ・ 盛り沢山だったので、要点を一つ掘り下げた方がよい
- ・ 事前の説明はとても良かった、ワークショップとのつながりを入れた方がよいかも
- ・ 時間不足
- ・ 時間配分をより明確に、主旨もわかり
- ・ 特になし
- ・





#### 4 , この度の信濃川を訪ねる旅で何が良かったですか。

- ・初めて見る信濃川の上流を確認できた。
- ・見学場所も充実しており説明も適切であった
- ・見聞を広められた
- ・故郷に戻った子供の頃を思い出しました
- ・信濃川の語源について、新潟の人の良さに感謝します
- ・私的に、水田の畦や農道をきれいに草刈している所が多く、西蒲の様に除草剤で茶色になっている所が少なく安心した
- ・日本のダムの実感できた
- ・大河と思っていたが川が流れていない、水が繋がっていないという事を理解した
- ・目で見て、肌で感じる事ができた
- ・自然、食事、大地と水
- ・河川の第一人者の解説が聞けたこと
- ・みんな真剣でよかった
- ・JR 宮中ダム、大河津分水記念館
- ・自然との共存に関して、ダム行政は思いやりを欠いていた
- ・ダムを多く見学できたし、大地の芸術祭も少し見学が出来た
- ・バス会社の対応、何より現地のすばらしさ、スタッフの気遣い、途中の解説の詳細さ、旅館
- ・標高のせいか涼を感じ、暑さから避けられ良かった
- ・雰囲気、企画と実行内容の双方
- ・大河を訪ねたこと、上流に行き、また下流に戻った
- ・学習、体験、すばらしい
- ・ダムの状況と大地の芸術祭を見て回れたこと
- ・盛りだくさんすぎる
- ・電力のため（繁栄）、川の水を取り過ぎている事実（自然の恵み）が分かったことが良かった  
「萬象二天意ヲ覺ル者八幸ナリ」最高の収穫であった
- ・皆さんと話が出来たこと
- ・事前の勉強、道中バスでの説明、また現地での大熊先生はじめスタッフからの状況説明があったことですごく理解が出来た
- ・



## 5 , この信濃川を訪ねる旅で、新潟の水と土の芸術祭を考えることは出来ましたか。

- ・新潟の水と土の芸術祭の美術はスケールが小さい
- ・津南、中里、十日町市の作品は実に素晴らしい
- ・見た範囲では参考になった
- ・水と土の芸術祭のフロッタージの仲間 20 人程で大地の芸術祭を見ましたし、今回も無料の作品を見せてもらい集落と作家と一緒に努力している環境が、新潟の水と土の芸術祭には薄いし、チャッポイ
- ・特にありません
- ・はい、
- ・トライすることが出来ました
- ・展示作品のインスタレーションが表面的
- ・生態系が崩れている状況をもっとフィーチャーし、情報発信していくべき。その媒体としてアートはツールとして間違っていないと思う
- ・自然のものの考え方がきれいでした
- ・二つはつながっていた
- ・自然を大切にしている地元の人達（清掃や畦の手入れ）
- ・はい
- ・考えることは出来たが、芸術作品はよくわからない
- ・特になし
- ・信濃川の源流まで訪ねることでこのイベントの意義を
- ・新潟の水と土の芸術祭と十日町の大地の芸術祭を見て比べることができた
- ・芸術家のあり様がよく理解できなかった、また遠くから来たいとは思わない
- ・なんとかできた
- ・理解できました
- ・これからしっかり考えたい
- ・妻有地方の水と土芸術祭は地元に着いた感があり、大変楽しめた
- ・自分の家には車がないので、両方を観ることが出来てラッキーでしたが、水と土の芸術祭には疑問が深まりました
- ・今回の吉原さんの「シビタ」には感動した
- ・吉原さんのプレゼンで治水にかける先人（吉原さんの先祖ら）の取組に敬意を表したい  
こういうことが背景にあってはじめて水と土の芸術祭が産まれてくることだと思った
- ・



水と土の芸術祭 バンブーハウス



大地の芸術祭 いちばん長い川



**6 ,この度の信濃川を訪ねる旅で不足している点、改善点を自由意見をお書きください。**

- ・時間を有効に使い、楽しく有意義な旅でした
- ・スタッフの皆さんに感謝します、ありがとうございました。
- ・時間に余裕が欲しかった
- ・魚道が小魚、中魚、大魚とうまく遡上すると良いのだが
- ・ラフティングにより水の中でのジェットコースターは素晴らしいと思いました
- ・親水に子供達と遊べる環境づくりに努力していきたい
- ・時間が不足でした
- ・この度だけを考えれば大地の芸術祭を少なく、ダムをもっとゆっくりと見たかった
- ・PRの仕方、もっと市民に知ってほしい
- ・参加者の中にも河川等の初心者がいるので、事前講座があつてよかった
- ・特になし
- ・2泊3日をかけて、時間的にゆとりをお願いしたい
- ・川下りも一コマ入れてもらえとなお良い
- ・大河津分水での時間不足（大熊先生の説明時間がもっとあつて欲しかった）
- ・大地の芸術祭も見れて良かったが、時間的に無理、かなりオーバーワークでした
- ・すべて満足でした
- ・スタッフの気遣いに感謝です
- ・水と土の関わり、ダムと発電所、人々の温かい交流の旅でした
- ・具体的にどう動いていくべきかの方針を示すべきなのか？
- ・事務局の周到なご用意、ありがとうございました
- ・今回は初めての参加でしたが非常に有意義であった。  
週に数回は、信濃川河口のやすらぎ堤を散歩しているが、中流、上流がどんな状況なのか、  
また先人の治水にかける熱意や取組みを、大河津分水見学を通して知ることができた
- ・事前の勉強会はとても役にたった。来年も是非継続してほしい、可能であれば期間を延長して  
源流の甲武信ヶ岳までのぼるコースをいつか開催してほしい。ありがとうございました
- ・